



第103回  
全国高等学校ラグビーフットボール大会  
東京都予選

～ルール・安全対策～

—  
2023.9.2

高体連ラグビー専門部

レフリース委員会



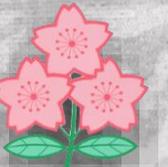
# TOPICS

---

*世界的試験実施ルールの確認  
【ハイタックルについて】*

## タックルの高さに関する試験的实施ルール

- ・ 胸骨の位置へのタックルはハイタックルでPKとする。
- ・ 最初のコンタクトの位置は胸骨より下であったが、ずり上がって最終的にコンタクトの位置が胸骨になった場合、PKとなる可能性がある。
- ・ 複数でタックルする際は、1<sup>st</sup>タックラー同様に胸骨より下へタックルしなければならない。



試験的実施ルール適用の背景

ラグビーをする上で大切な事

チーム・選手・レフリー  
危険がなく安全にプレー

# 危険性と安全性の重視

プレイヤーの安全を守る為に、

- ① コーチは正しいスキルを教える、
- ② プレイヤーは正しいテクニックでプレーする
- ③ レフリーは危険なプレーを適切に判定する

## 危険性と安全性の考え方

### \* 動的vs静的

相手に対して加速している＝強い力が加わる

立ち止まって静止している＝強い力は加わらない

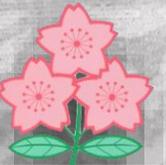
### \* 高い姿勢vs低い姿勢

頭が高い位置にある＝頭部コンタクトの可能性が高い

頭が低い位置にある＝頭部コンタクトの可能性が低い

相手に対して加速して高い姿勢でコンタクトしたが、相手との力の関係で結果的にタックラーが負けた(受け止めた)形になった際は危険なプレーと判断する

これらのキーワードを用いて、危険か安全かの判断/判定を行う



# 胸骨より上へのコンタクト (タックル)のキーワード

- ①膝を折らず
  - ②腰も落とさず
- } 高い姿勢

- ③加速からの強い力(強い圧力)

※コンタクトの勝ち負けではない。

胸骨より低い位置へのタックルが求められる。



—  
PK

胸骨より低い位置へのWタックルは認められ、プレーオン(PO)である。



PO

(タックラー2人ともが胸骨より低い)



PK

(手前のプレイヤーは胸骨より上に力を加えている)

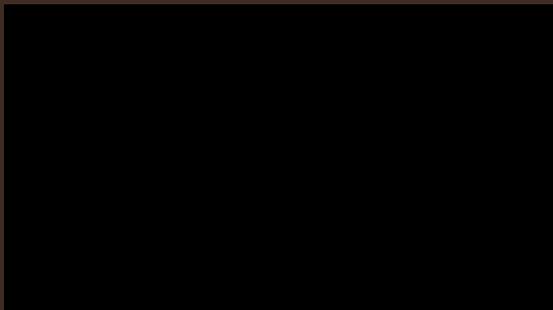
胸骨より低い位置へタックル・Wタックルを試みたが、ボールキャリアーが低くなり、胸骨の位置へコンタクトした場合はプレーオンとなる。



PO

(ボールキャリアーが低くなったことによるコンタクト)

ボールキャリアーの上体に対して力を加えることなく、受け止める、引き倒すなどの行為は危険性が無ければプレーオンとなる。



PO  
(上体へ力を加えず、  
受け止めている)



PO  
(上体へ力を加えず、  
引き倒している)



PK  
(2人目は胸骨より上  
に力を加えている)

胸骨より上へのコンタクトを  
伴わないボールへの  
コンテスト(リップ)は認められる。



PO

背後・横からの場合でも、胸  
骨より上へのコンタクトは  
ハイタックルとしてPKとなる。



PK

ラインアウトにおいて、相手頭頸部への  
コンタクトが発生しない(危険度が無い)  
サックは認められる。



# 胸骨より上へのコンタクト (タックル)のキーワード

- ①膝を折らず
  - ②腰も落とさず
- } 高い姿勢

- ③加速からの強い力(強い圧力)

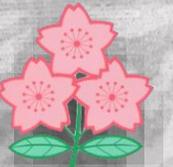
※コンタクトの勝ち負けではない。

## 危険性と安全性の考え方

### Clear & obvious

プレーヤーは「**クリアーで明確に安全にプレー**しましょう」

レフリーは「**クリアーで明確な危険な行為に罰**を課しましょう」





ご清聴ありがとうございました。